シリーズ
かほく市の文化財 No.58

有形文化財 編　潜水艇 TADPOLE（2）

No.５８に引き続き、潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥが開発された当時の背景や状況を見ていきたいと思います。

潜水艇の歴史を大きくみると、１９６０年に米国の「トリエステ号」がマリアナ海溝南部にて海底１０，９１６ｍに到達したことを皮切りに、世界中で海洋技術の開発が動き始めます。１９６０年代の日本でも、国内メーカーを中心に新海潜水調査船の独自研究を進め始めました。そして、１９６５年に国として「潜水技術に関する総合研究」を開始し、１９７０年代に多数の実験が行われていくようになります。これは、海洋調査だけでなく、海洋資源の獲得や海洋開発までを視野に入れたものでもありました。

潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥは昭和４７（１９７２）年に開発されたため、多数ある実験の内の１つといえます。そして、当時の開発関係者らや田代省三氏からは、潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥは以下のように海洋技術史として位置づけられるとおっしゃられています。「潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥは、海洋調査・海洋工事の機器開発という観点から、まず浅海用の潜水艇として開発されました。有人潜水艇は、事故が少なくなく、無人潜水艇（ＲＯＶ）の開発が主流となっていき、また、浅海の工事はダイバーが主流となっていきました。そして、有人潜水艇は、調査という限られた範囲で開発されることになり、大水深の海洋工事はＲＯＶが主流となっていきます。さらに、２１世紀にはいり、自律型無人潜水機（ＡＵＶ）が各種調査に開発されるようになりました。従って、潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥの海洋技術史として位置づけは、日本における潜水技術の黎明期の試みとして、歴史の一コマとしての価値があるといえます。」

潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥは、風雪による経年劣化により錆が目立つようになりましたが、今もうみっこらんど七塚で野外展示しています。本物の潜水艇をまじかに見つつ、当時の開発した方々の熱意に思いを馳せてみませんか。

うみっこらんど七塚へ
移設される前の TADPOLE

平成 11 年にうみっこらんど七塚へ
移設された頃の TADPOLE

現在の TADPOLE

かほく市教育委員会
スポーツ文化課